日レセ連携手順

日医特定健診ソフト側の作業

健診機関情報メンテナンス画面で「日医レセプトソフトと連携する」で「はい」 にチェックし、必要事項を設定します。

IPアドレス:日レセサーバのIPアドレス(例:192.168.1.11)

ポート番号:日レセサーバ上のPostgreSQLのサービスポート(通常は 5432)

データベース名:日レセデータベース名(通常は orca)

プロトコル:3(TCP/IP接続)

ユーザID: PostgreSQLでの日レセデータベースのownerユーザ名 (通常は orca)

パスワード: 同上 パスワード(例: orca123)

日医特定健診ソフトの使用端末のIPアドレスを調べておきます。(例:192.168.1.5) ※IPアドレスは固定が望ましいです。

日レセサーバでの作業

jma-receiptのセットアップにより追加されたPostgreSQLのorcaユーザにパスワードを設定します。ここではパスワードをorca123として以下のように設定しますが、 実際には別のパスワードを設定して下さい。

(特定健診ソフト側設定もそのパスワードにします)

 $\$ sudo -u postgres psql template1 -c "ALTER USER orca WITH PASSWORD 'orca123'; "ALTER ROLE

\$

ALTER ROLEと出れば正常に修正が完了しています。

この表示が出ない場合はコマンドを見直して、もう一度実行してください。

続いて特定健診ソフトから接続できるように

/etc/postgresq1/8.3/main/postgresq1.conf

と/etc/postgresq1/8.3/main/pg_hba.confを

gedit等のエディタで次のページのように書き換えてください。

※コマンド中で 8.3 と記述してある箇所は Ubuntu 8.04 を想定したものです。

Debian Etch の場合は8.1、Ubuntu 10.04の場合は8.4に読み替えてください。

\$ sudo gedit /etc/postgresql/8.3/main/postgresql.conf

#-----

FILE LOCATIONS

CONNECTIONS AND AUTHENTICATION

#-----

- Connection Settings -

listen_addresses = '*' #シャープを取り外して 'localhost'を'*'に変更

comma-separated list of addresses;

defaults to 'localhost', '*' = all

port = 5432

 $max_connections = 100$

note: increasing max_connections costs ~400 bytes of shared memory per /etc/postgresql/8.3/main/postgresql.conf

\$ sudo gedit /etc/postgresql/8.3/main/pg_hba.conf

Database administrative login by UNIX sockets

local all postgres ident sameuser

TYPE DATABASE USER CIDR-ADDRESS METHOD

次の1行を追加(特定健診ソフト側のIPが 192.168.1.5 の場合)

host orca orca 192.168.1.5/32

password

#複数台の場合は、上の行をIPを変えて繰り返します。多い場合は、

マスクビット長の調整でアドレス範囲を表現してもよいです。

"local" is for Unix domain socket connections only

local all all ident sameuser

IPv4 local connections:

local all all 127.0.0.1/32 md5

/etc/postgresql/8.1/main/pg_hba.conf

最後に設定を反映させるために PostgreSQL を再起動します。

\$ sudo /etc/init.d/postgresql-8.3 restart